

今ついに待望のコミック大賞！お食事を記念センターカラー！！

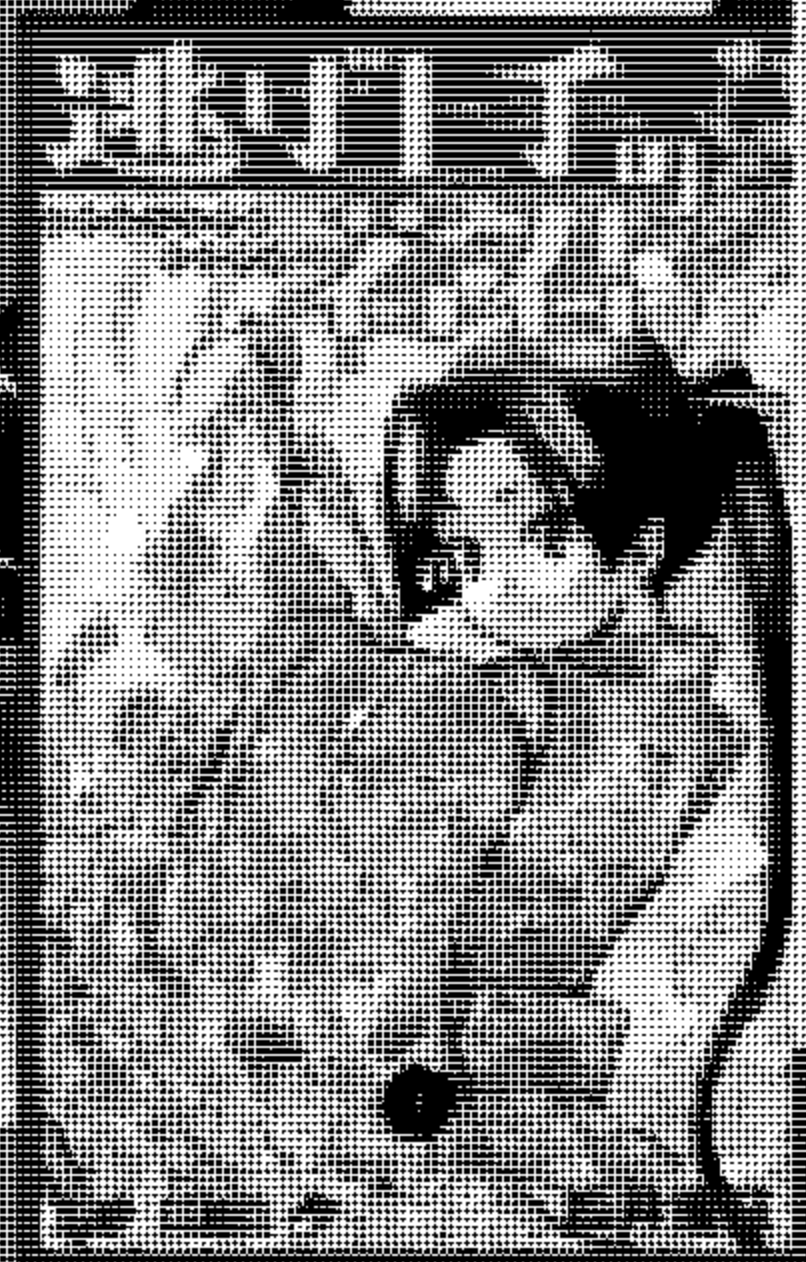
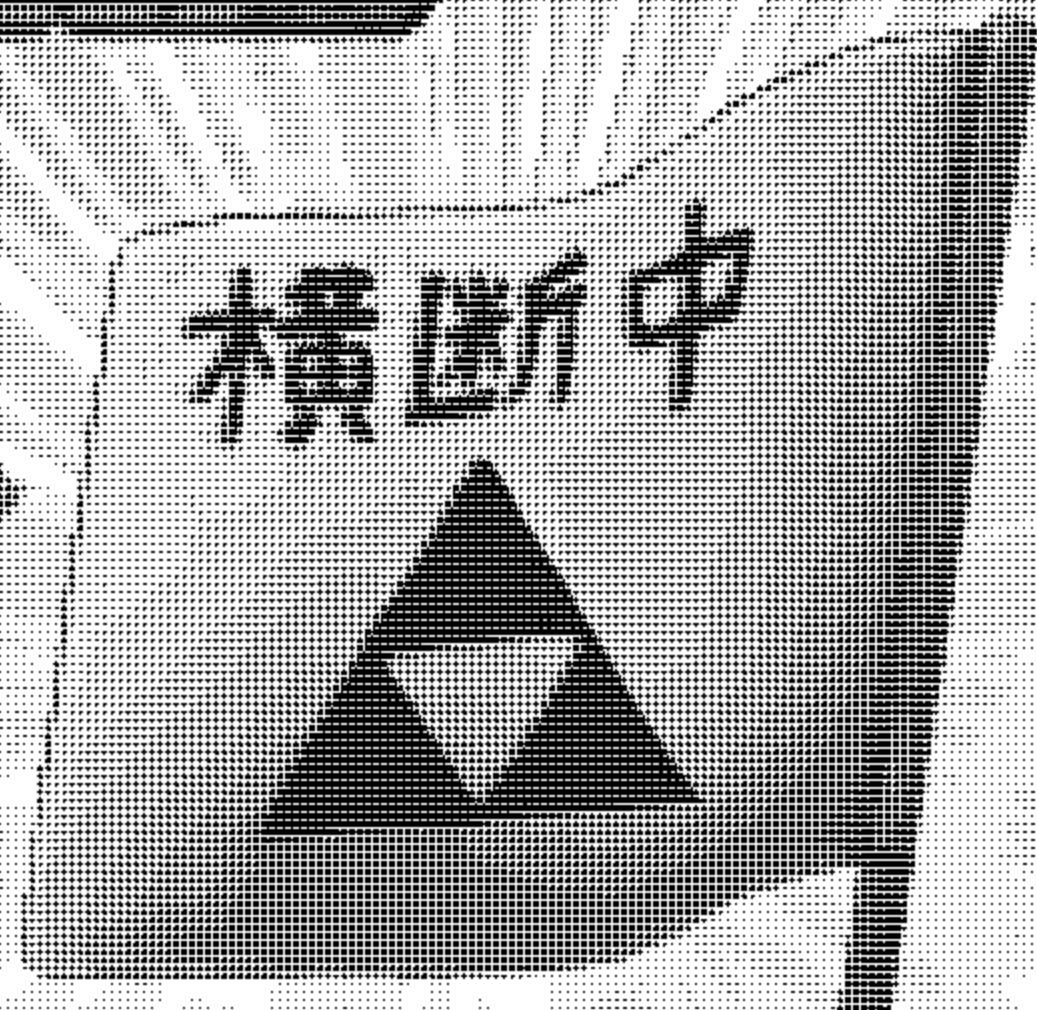
# にげぶおずわかぶ町

松小優征

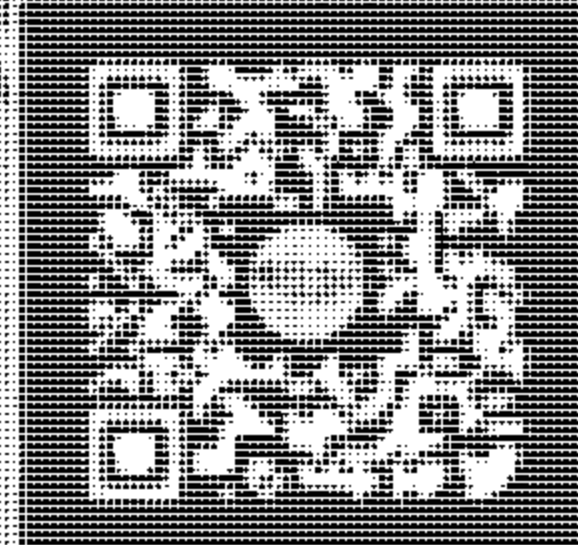
並與即黨同行

要仔細觀察戰況

奪取天下時



コミックス第1巻は  
時行の表紙が目印だ！



作品公式Twitterは  
@チカラヲイロー

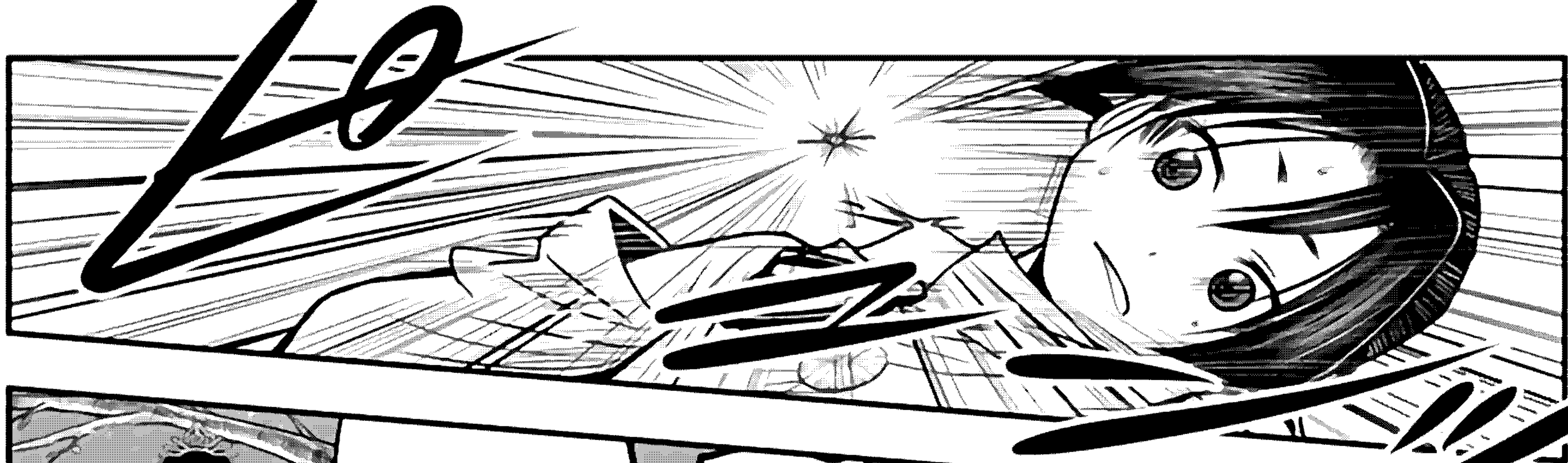


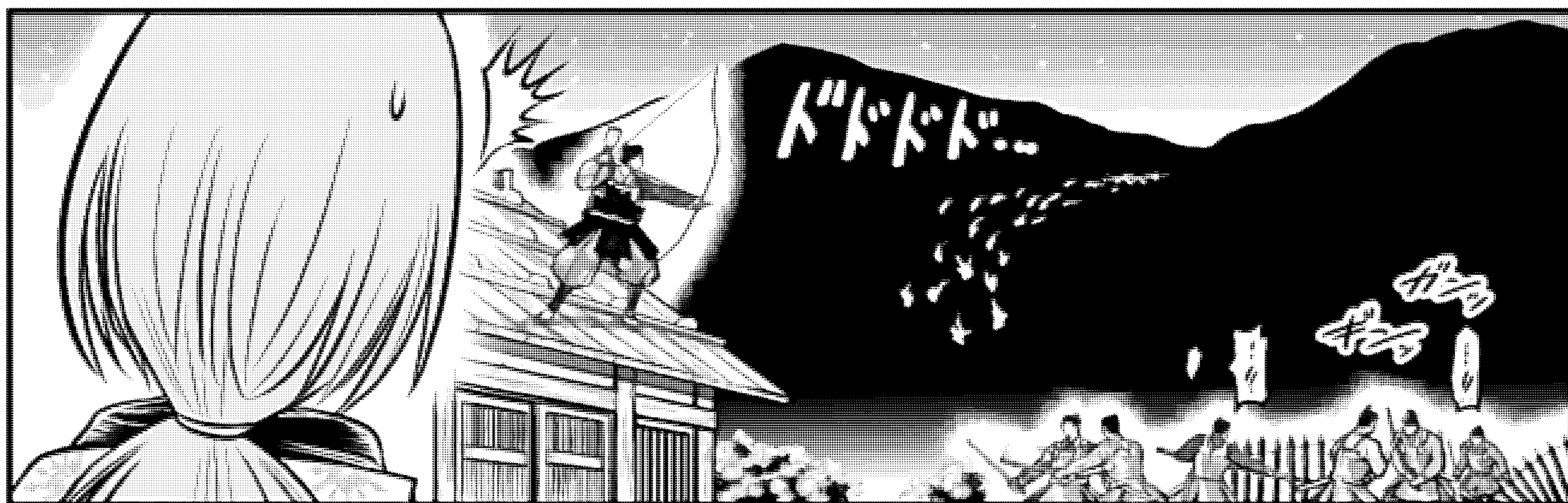
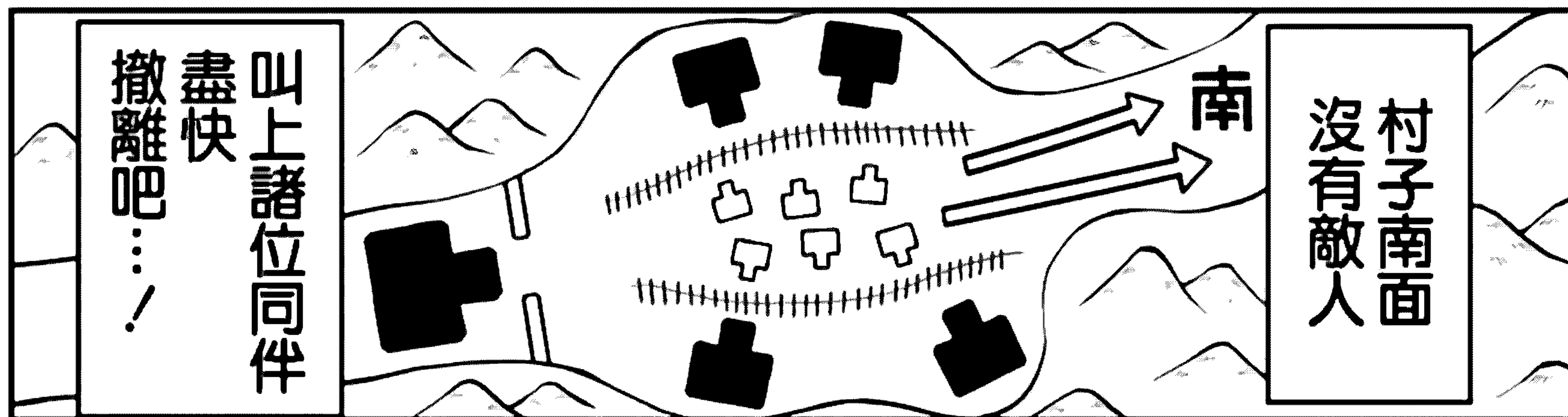




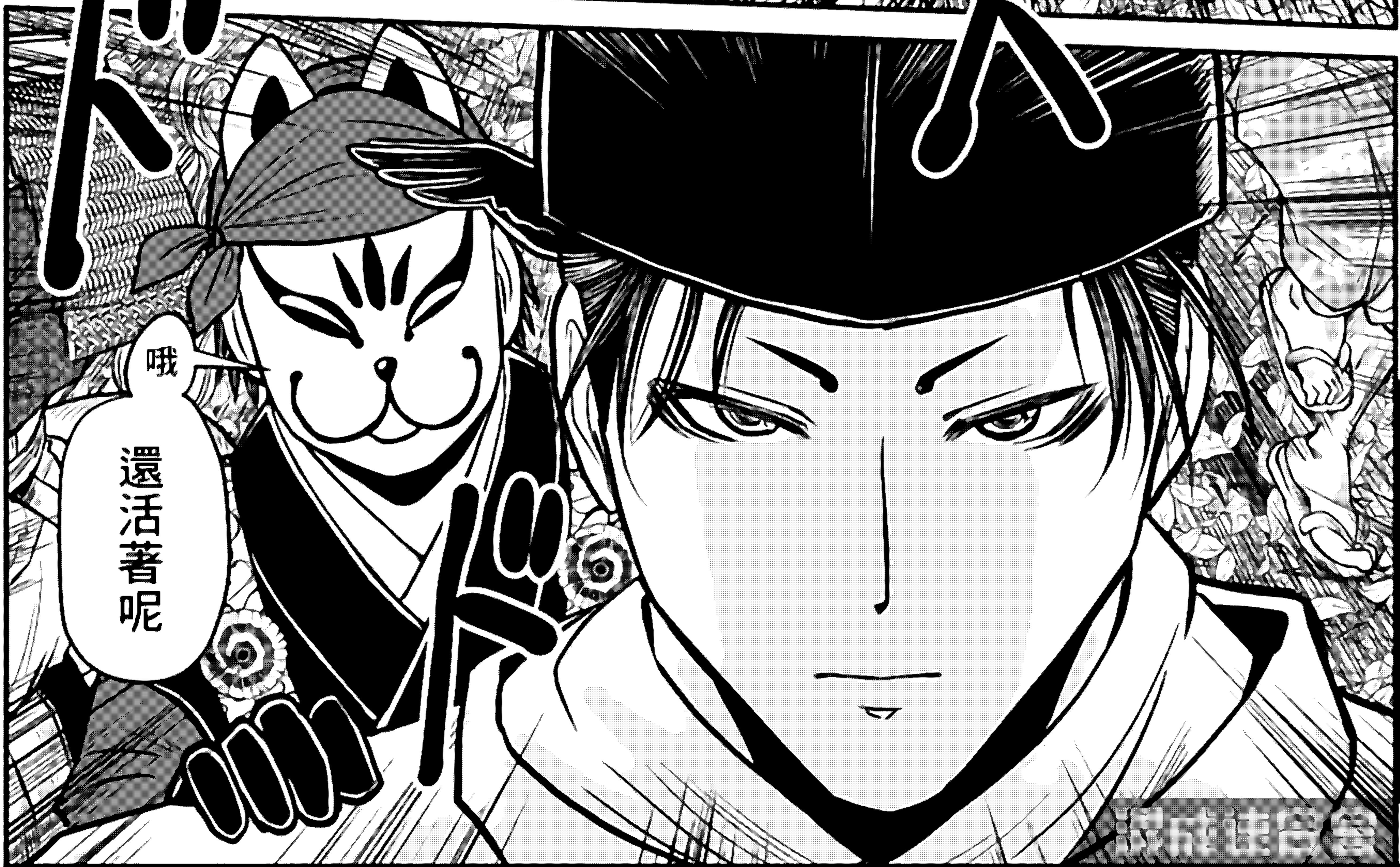
















糟糕！



是諏訪大社の  
援軍！

總算  
趕上了！



啊！  
喂 等下啊

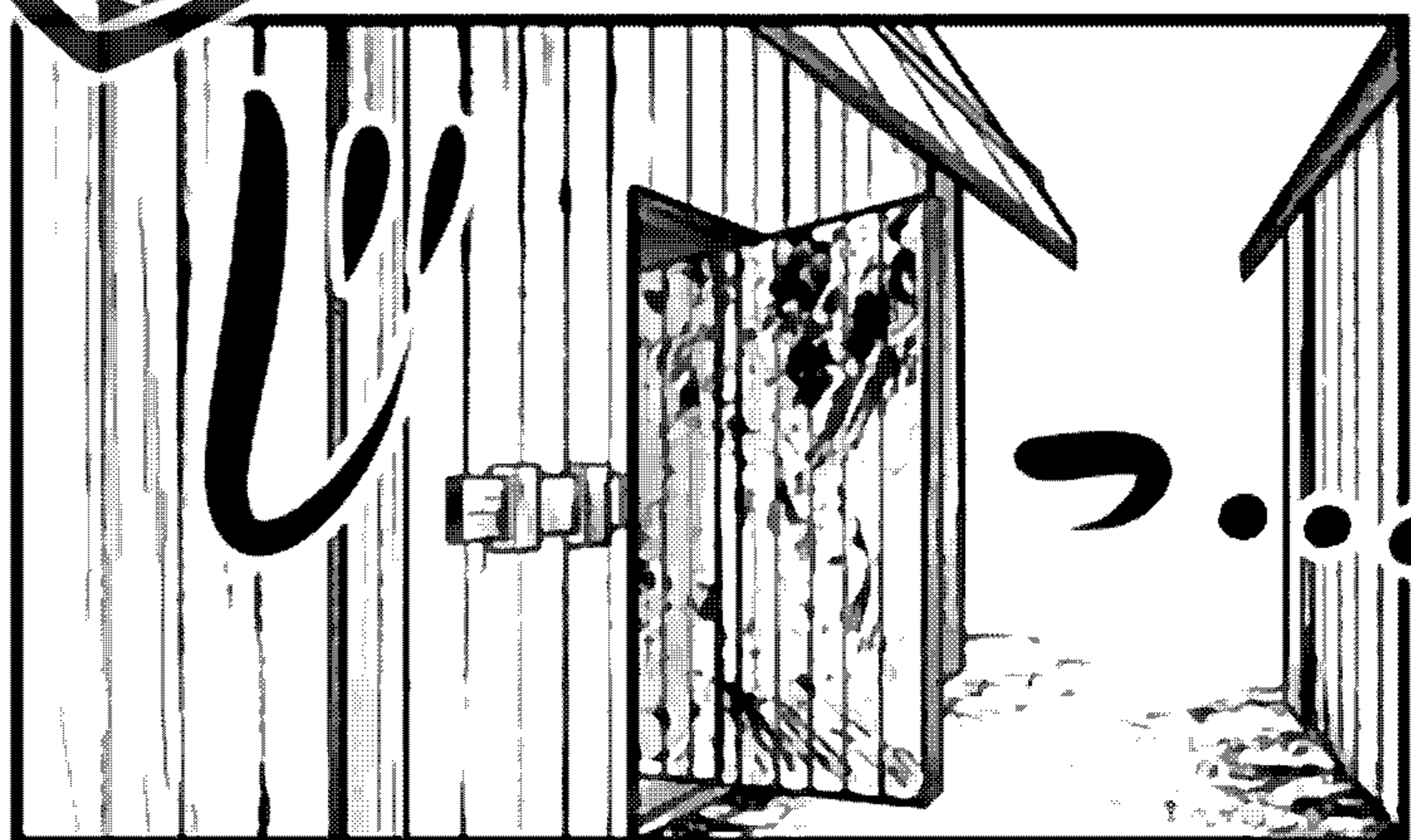


撤退！

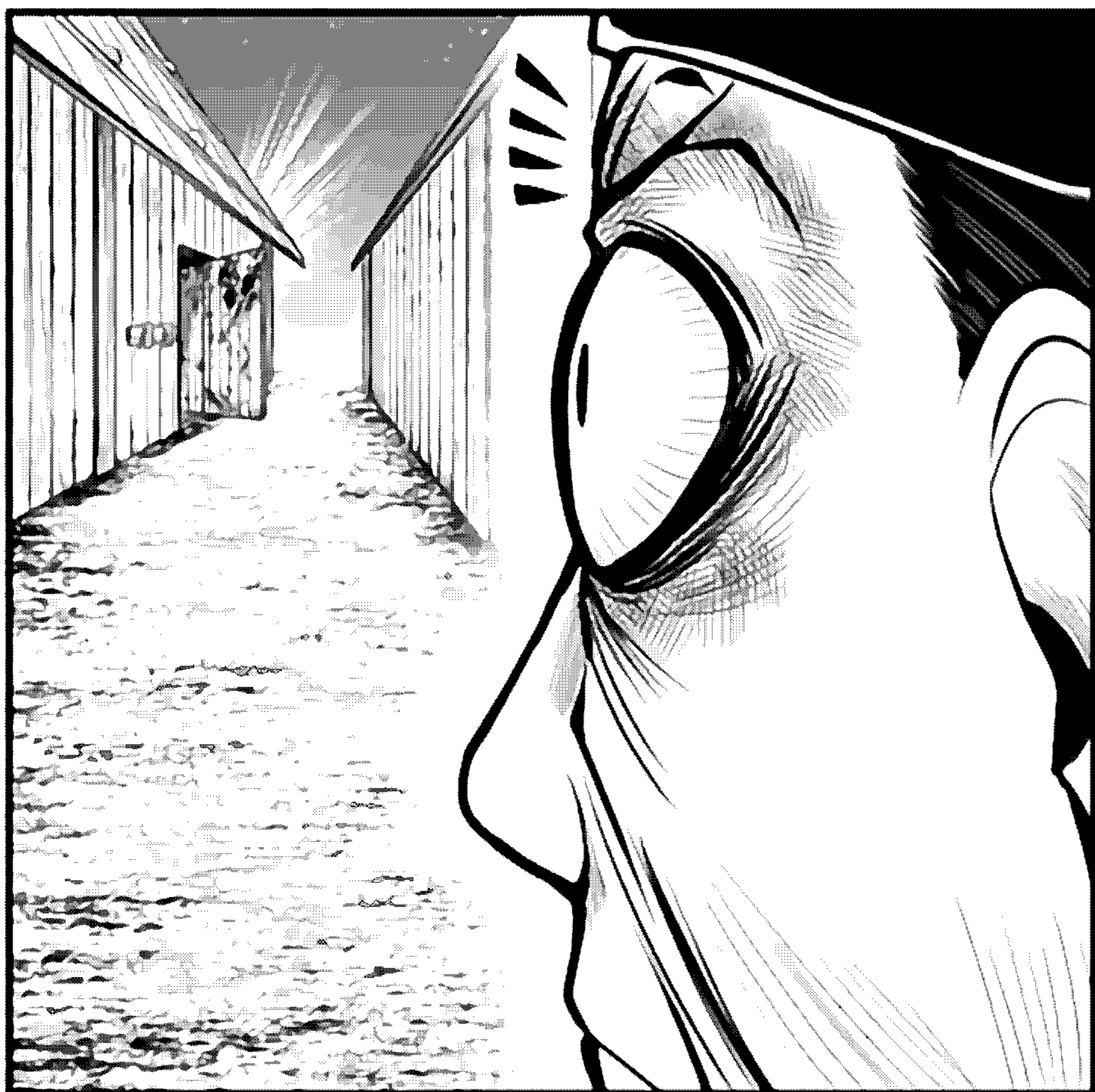
帶走附近的  
瘴奸兵就是  
顧不上其他了！

可是  
貞宗殿下……

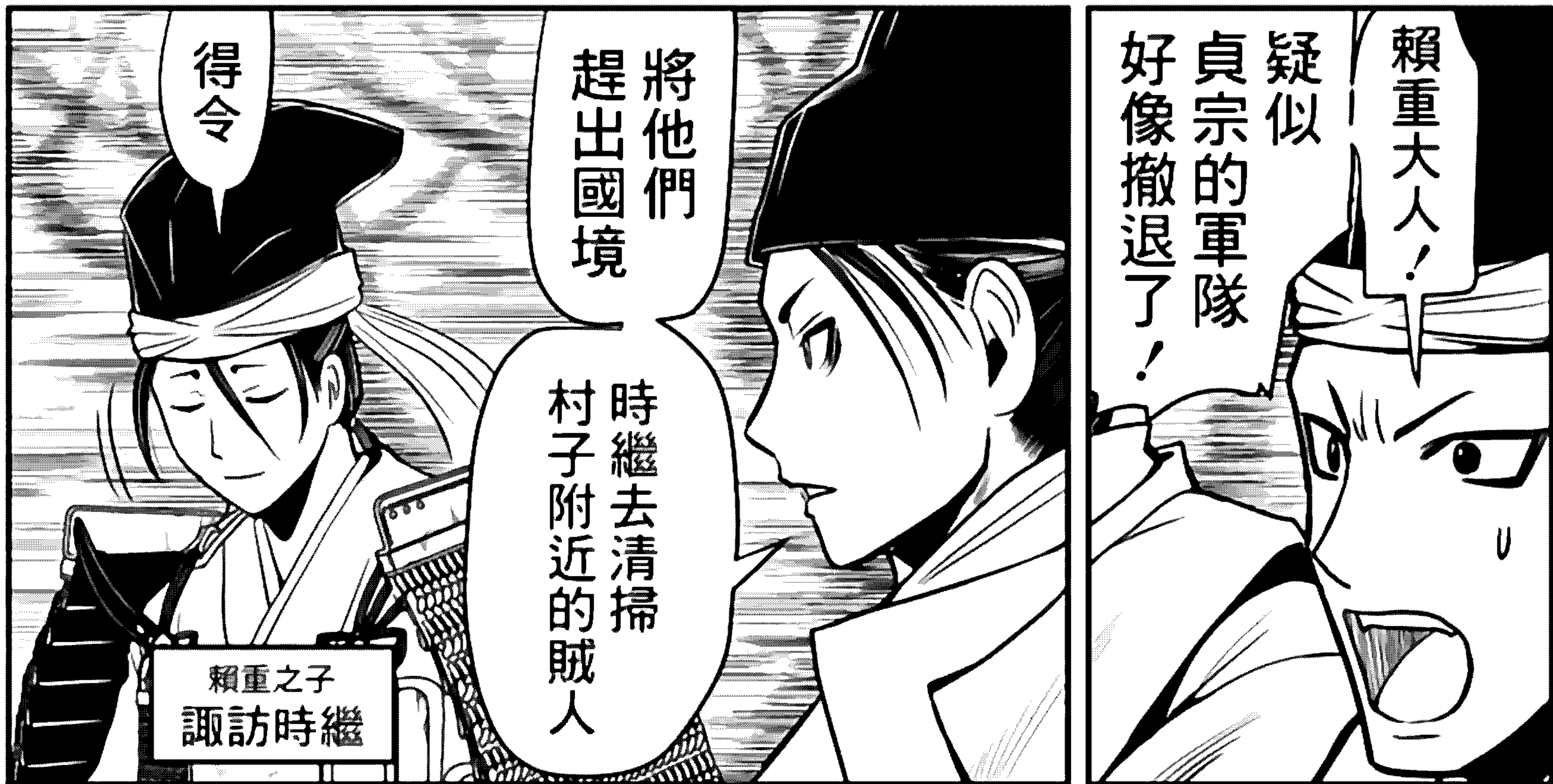
我可沒  
準備好  
和諏訪主力  
正式交戰！



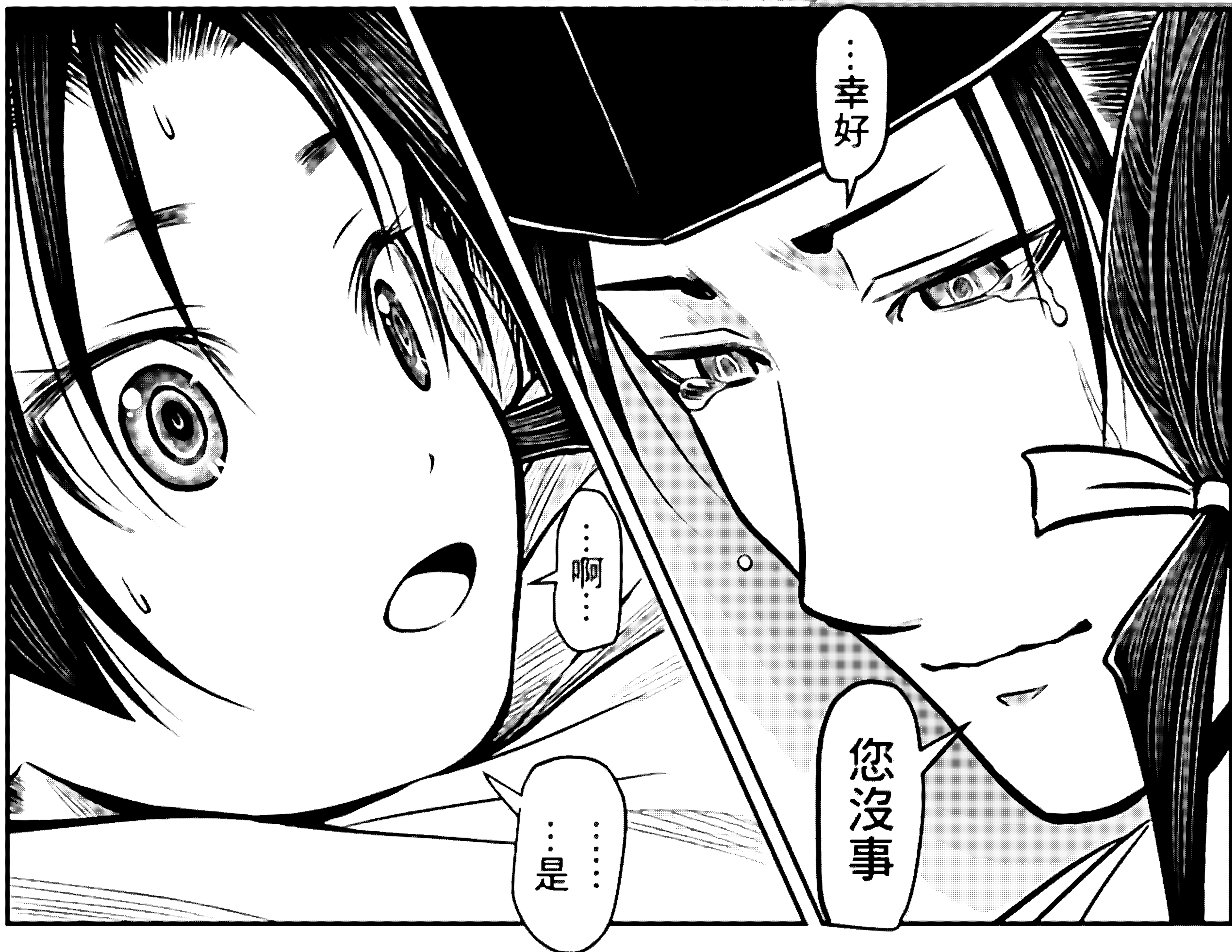
都是在野外  
交鋒的  
怎麼門內  
有血？









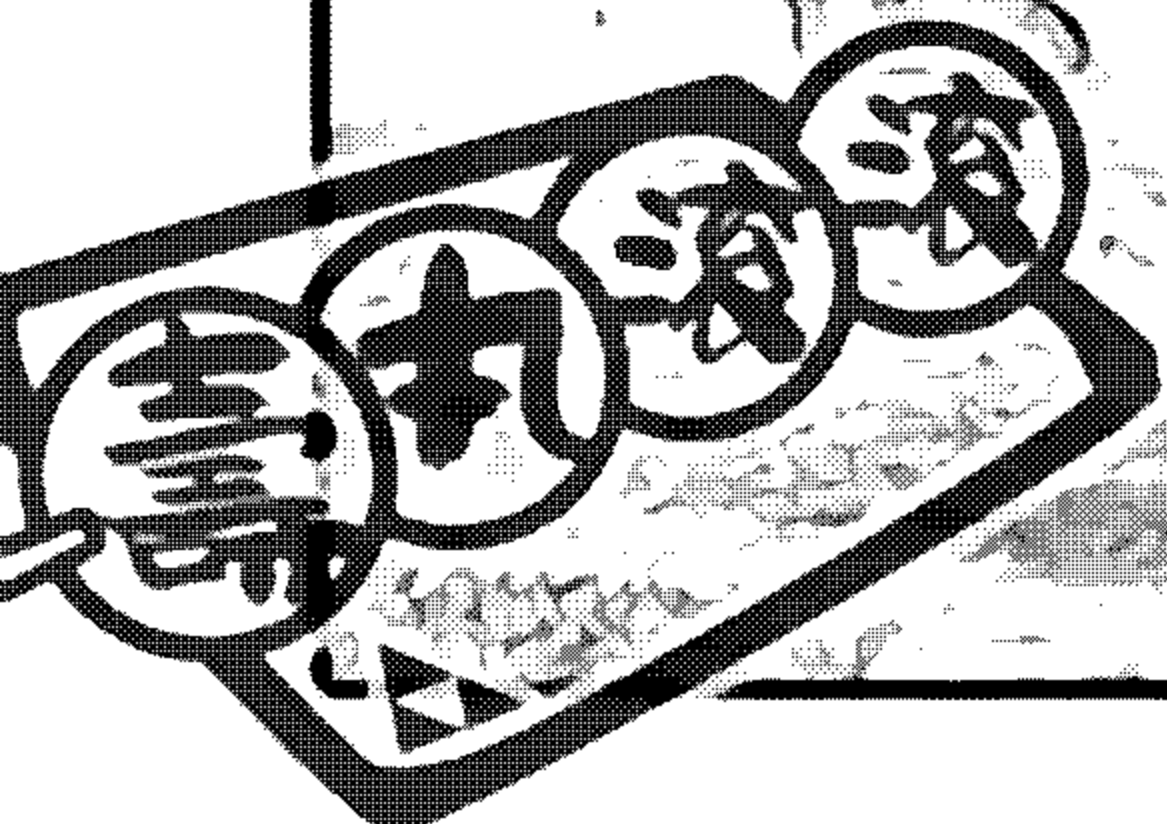






…有點

疼  
賴重殿下



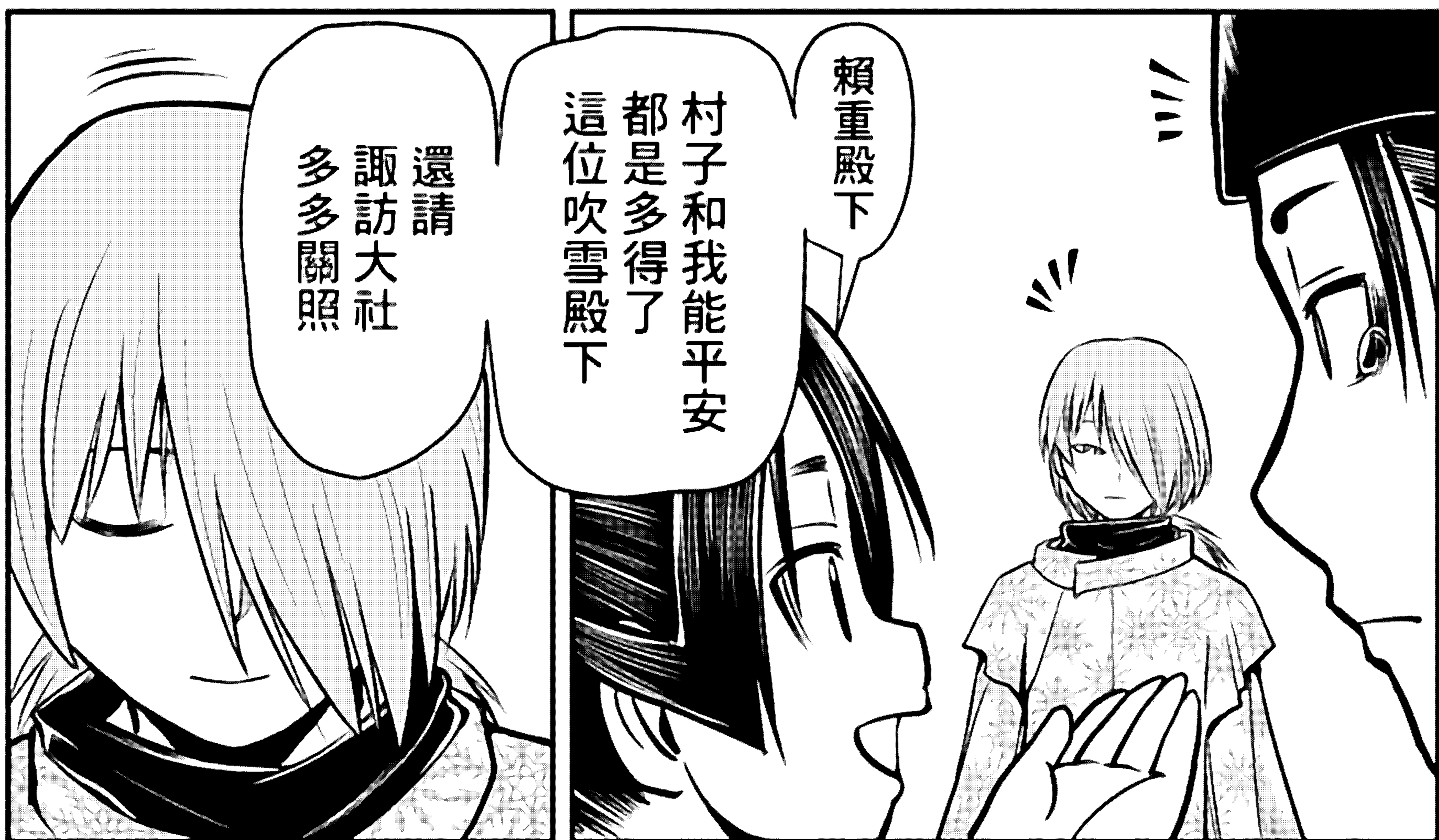
啊！  
你死個頭

途中  
看到妖嬈女人  
差點死於  
失血過多  
還捏了把汗呢



感謝我吧

多虧我  
全力策馬  
才趕上的

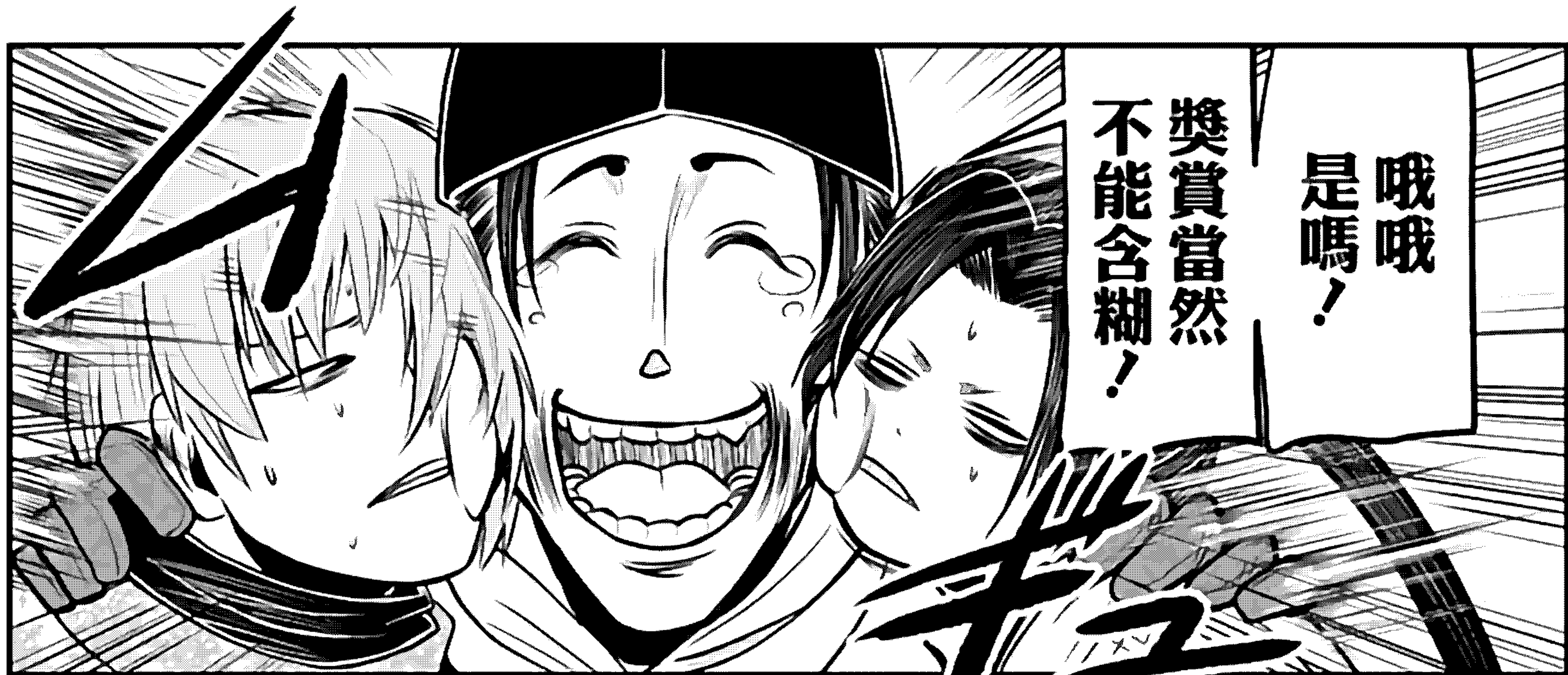


賴重殿下

村子和我能平安  
都是多得了  
這位吹雪殿下

還請  
諏訪大社  
多多關照





哦哦  
是嗎！  
獎賞當然  
不能含糊！



我是想  
交個朋友  
但臣下是  
另一碼事！

…哎？  
且慢  
長壽丸殿下



我想侍奉  
劍指天下的  
主君

您的主君  
諏訪殿下  
倒還：



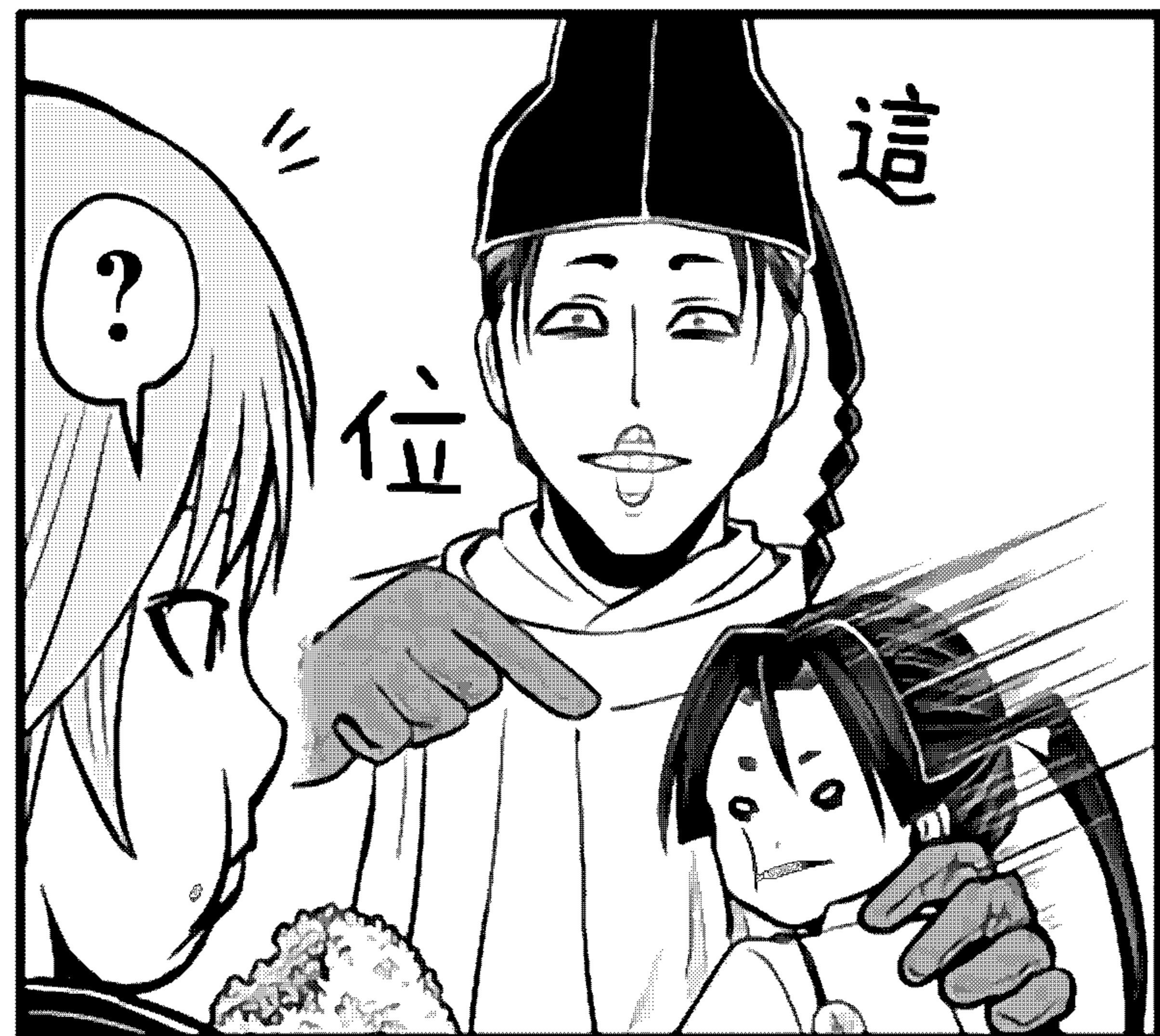
還有  
我想讓  
吹雪殿下  
加入麾下

好呀！



這位

主君



這

位

？



我是  
鎌倉幕府執權<sup>\*</sup>  
北條高時的遺子  
北條時行

姑且也想  
奪得天下的

\*相當於首相

哈啊啊啊啊!!?



很抱歉  
沒說實話

因為約好了  
要先跟  
賴重殿下商量  
再公開身份

之前  
是有覺得他  
暗藏某種  
巨大潛力

可這也太誇張了！

同時失去  
故土和親人  
未免有些可憐

若是庶民  
那他僅是溫和  
且擅逃之人

等他們整理好  
再出發也不遲

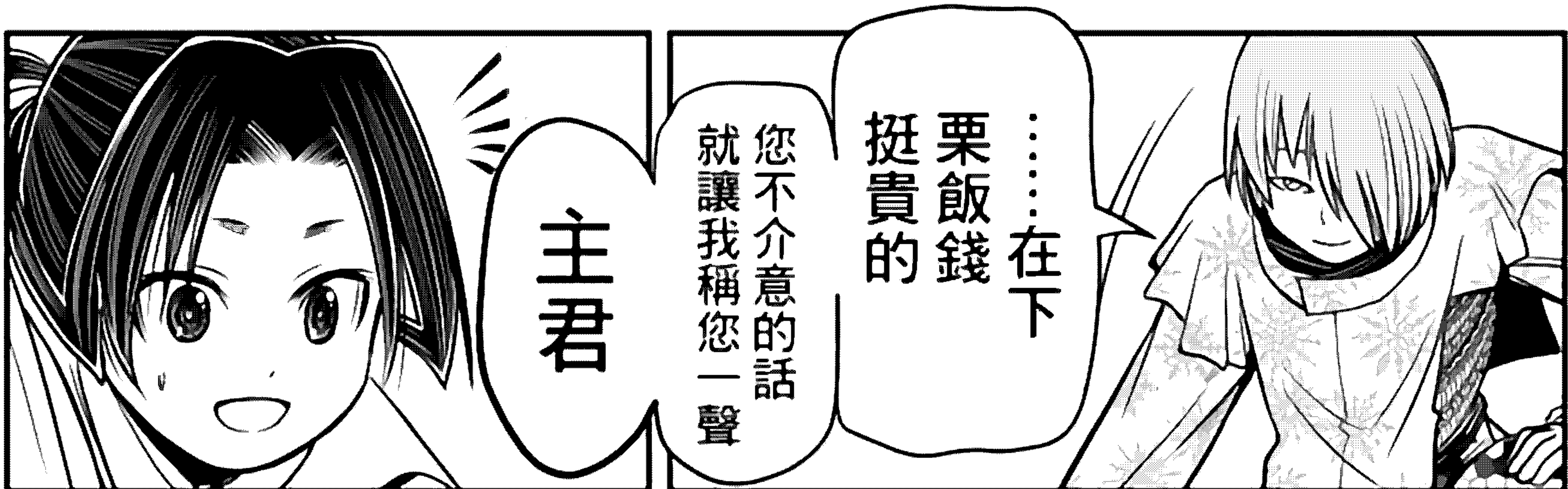
但再加上

「北條之子」的  
條件

那一切能力  
都將化作  
可怖的武器！

：太  
振奮人心了





……在下  
栗飯錢  
挺貴的

您不介意的話  
就讓我稱您一聲

主君



由我發掘  
這位王子  
暗藏的魅力

領他登上  
天下的舞台吧



在諏訪大社  
可以吃比栗飯  
更好的米飯

真的嗎!?

那不是極樂勝地!?

搞不懂

這傢伙到底是  
精明還是笨蛋

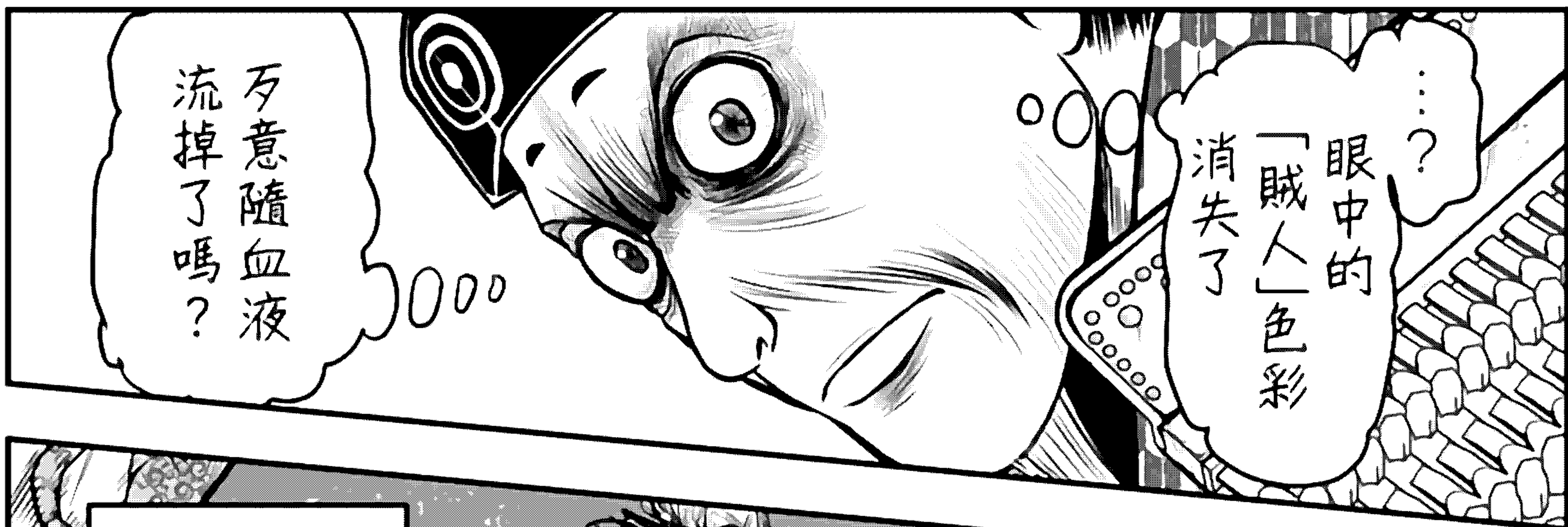
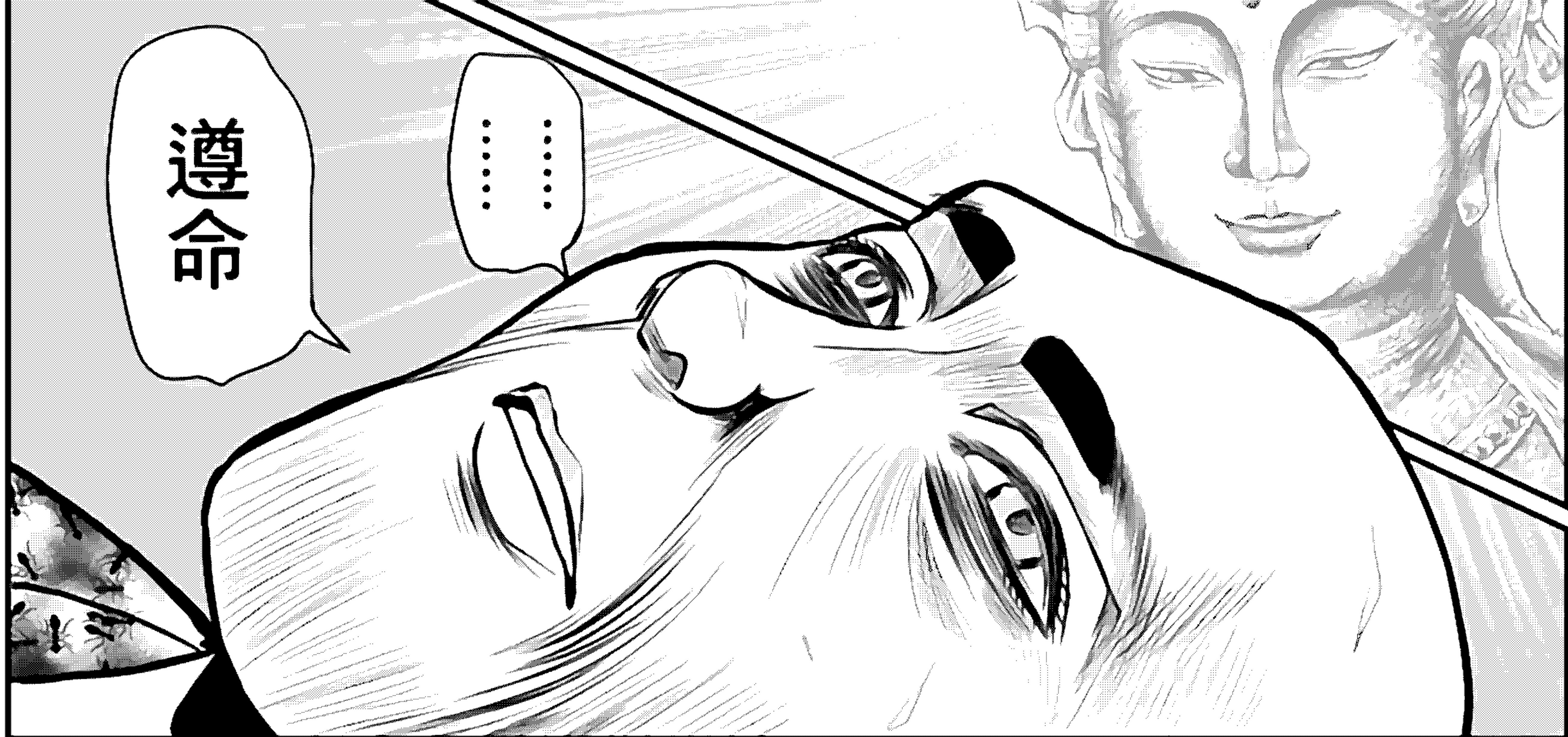






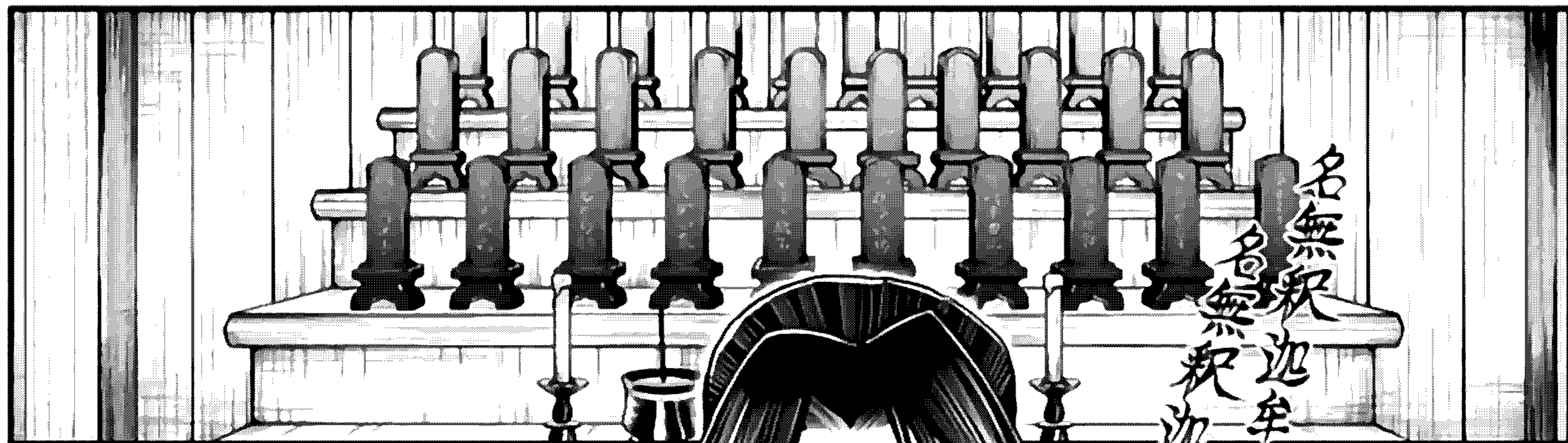




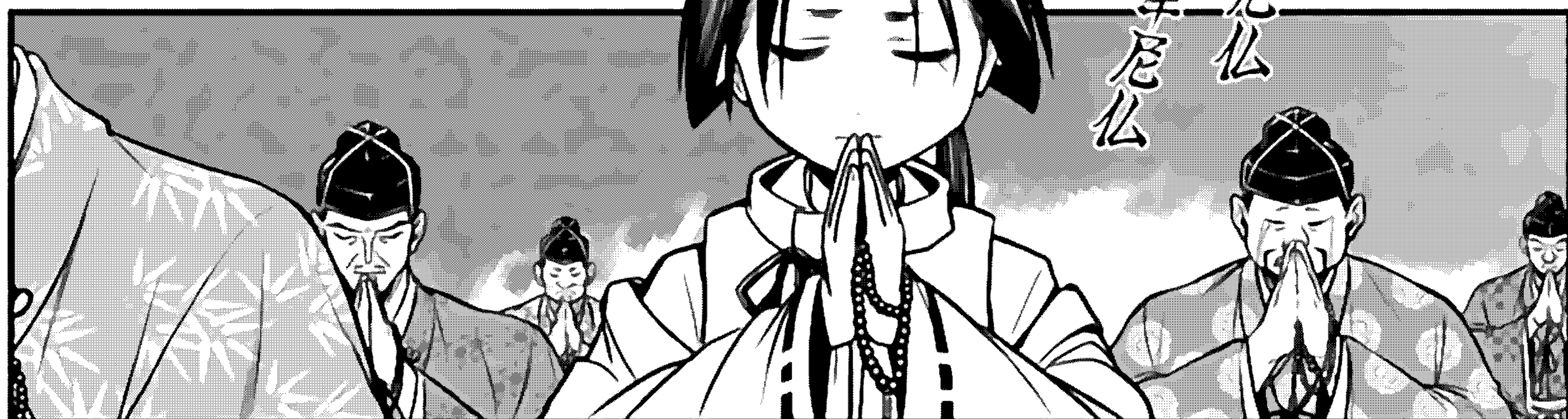




☆待望のJ.C.第1巻が大好評発売中だ!!時行の表紙が目印!!解説上手の若君も収録!!

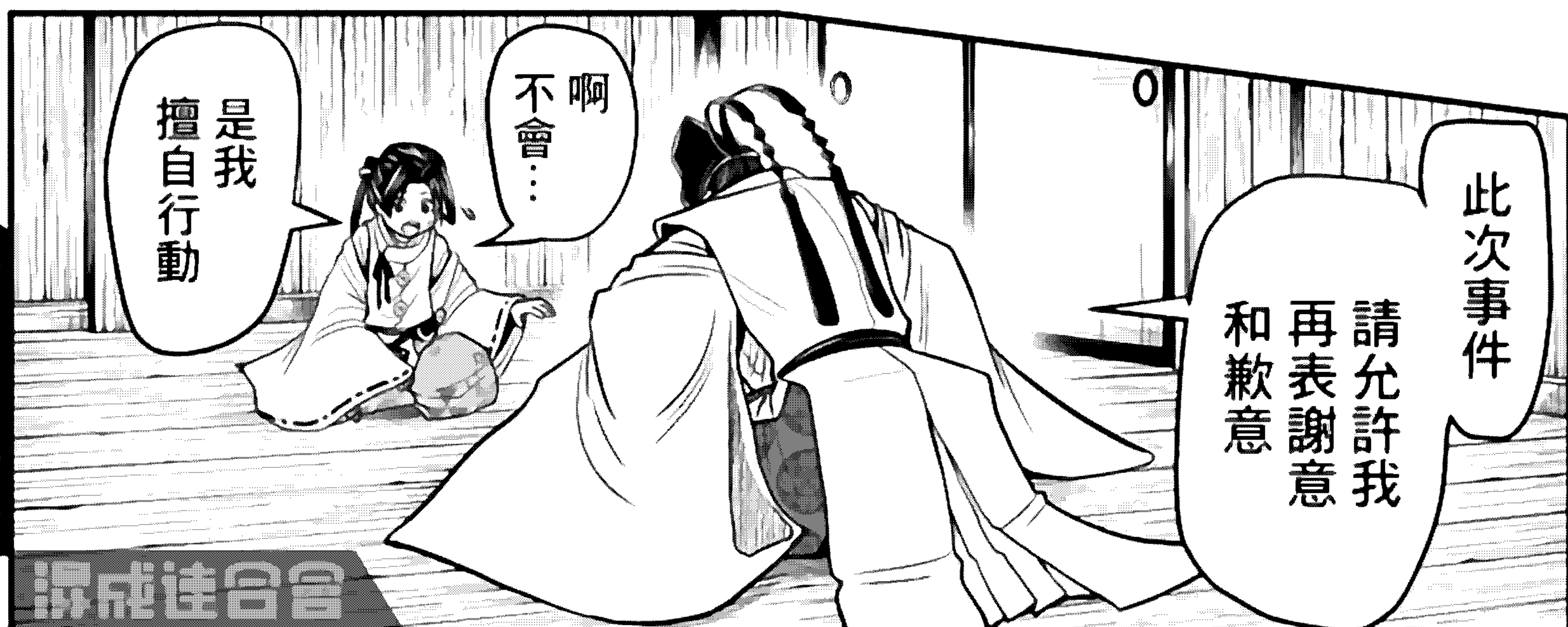


名無釈迦牟尼仏  
名無釈迦牟尼仏  
名無釈迦牟尼仏



有些武士因爲  
我想守護村子  
而死

要做大將  
就得多多留意

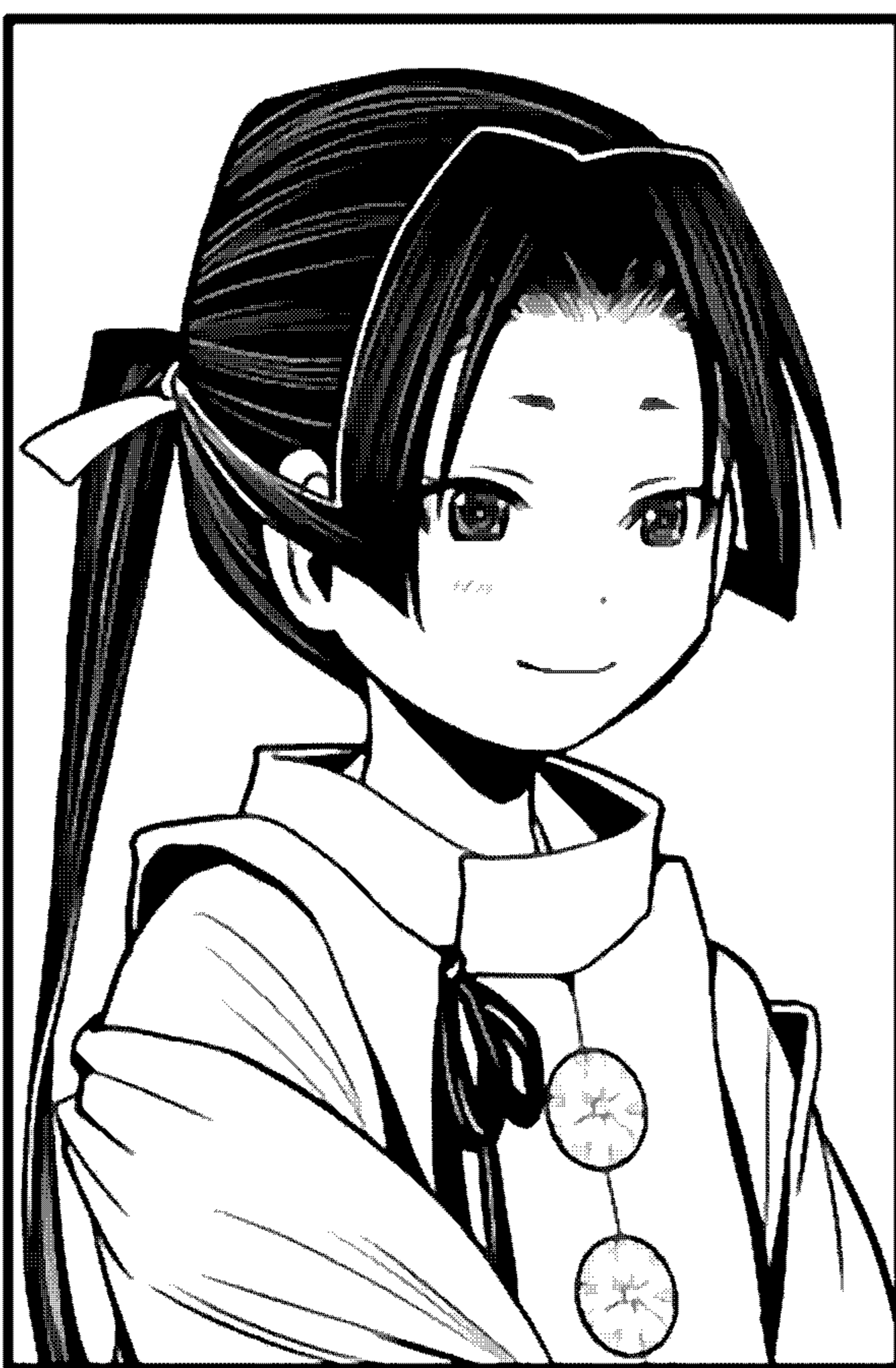
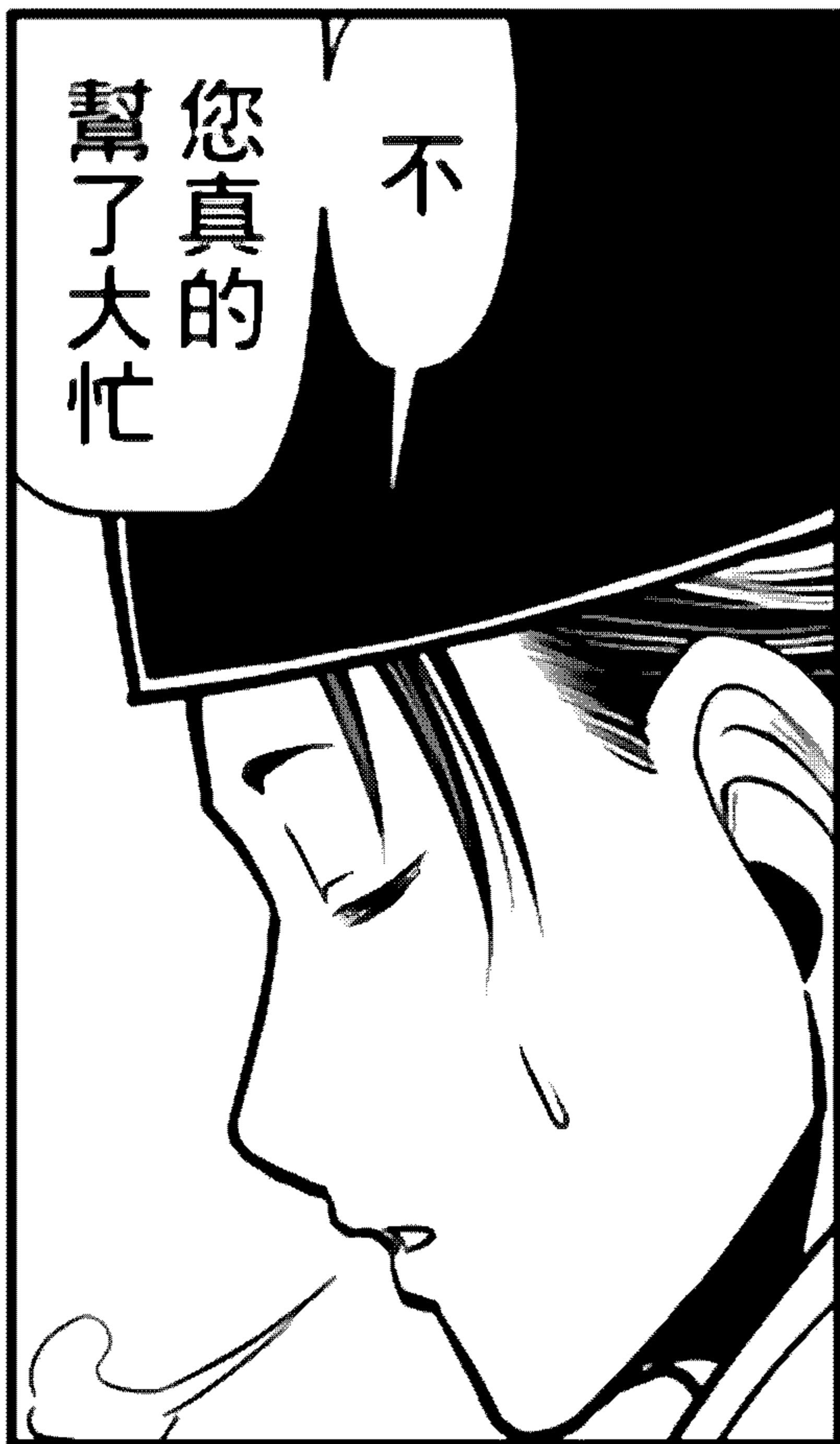


是我  
擅自行動

啊  
不會...

此次事件  
請允許我  
再表謝意  
和歉意











我想告訴  
時行大人

我的  
力量之源

這世上  
還留有

憑武力  
和智慧……

無法估測的  
神奇力量

★神力  
知其皮毛

……啊  
不過

請不要期待  
什麼……

「我的能力是  
操縱火！」

少主溜得快

第23話

……本話完

?



# 解説上手の若君

米が食べられると聞き  
吹雪が歓喜！どれ程  
貴重だったかを解説！

解説 本郷和人

1960年 亀有生まれ。歴史の研究者で  
ある東京大学史料編纂所の教授。おっちょこ  
ちらいでテレビや雑誌にも出演する。

## 当時の食事について

問 巻

当時お米はどれくらい  
食べられたの？

お米がどんな感じで食べられたか、ですか。  
あんまり史料がないなあ。でも、武士の食生活が全体に貧しかったのは確かで、おかずなんて、すこく貧相でした。「酢」がおかずとして食膳に上ってたみたいだし。

時行のおじいちゃん、更におじいちゃん、北条時頼という名君でした。この人、夜中に家米を呼び出して、「酒でも飲みながら話をしよう。お、つまみがないなあ」って。そこで台所を探

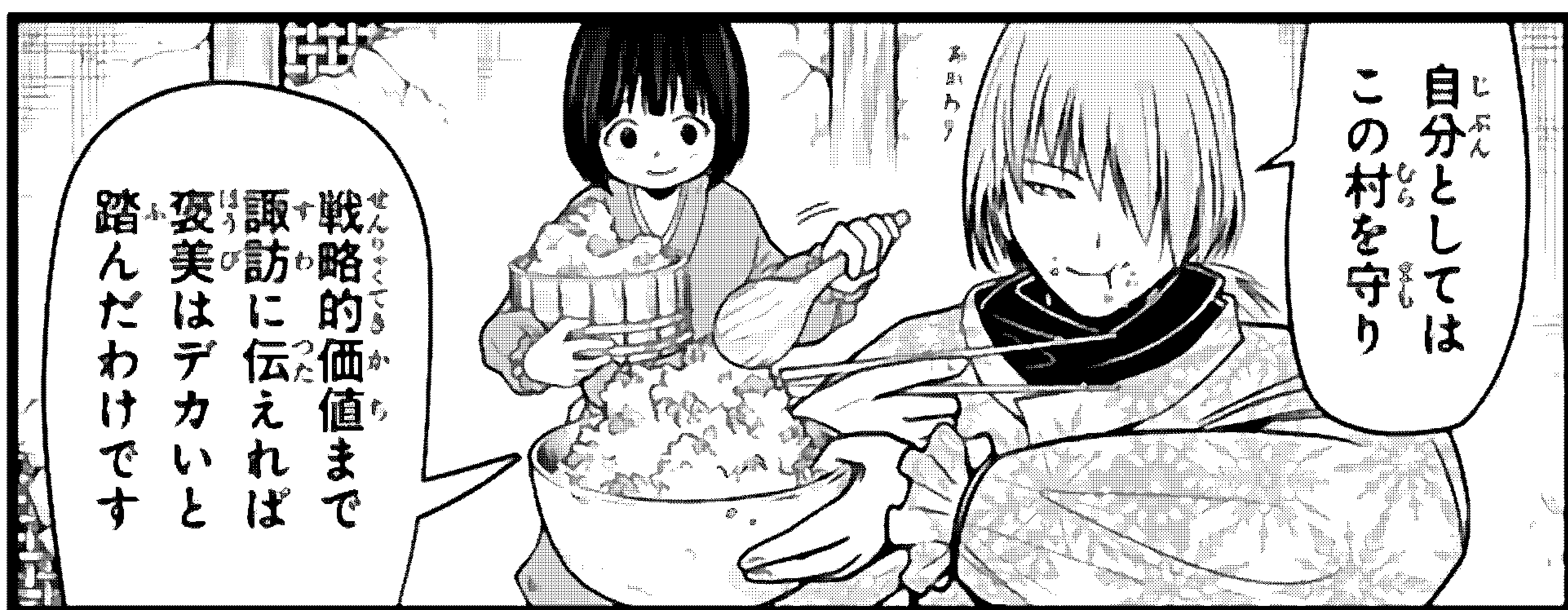
ヒハアアア 解説も読む人も  
最高おおおお

腐乳

した家来が、こんなものがありました。た、と味噌をもつていくと、おお上出来だ。と喜んでたそうです。「徒然草」に載ってる話。

幕府のナンバーワンがこんな調子です。御家人クラスだとお米を食べていたはずですが、ご馳走だったのですね。だから、「白米をおかずにしてご飯を食べる」習慣があつて、ものすごい量の米を食べていた。この頃の三大疾病の一つが「脚気」です。白米ばかり食べてビタミンを摂取しないと脚気になって全身がむくんで死ぬ。貴族も武士も脚気に悩まされていました。白米はよほどおいしかったのでしよう。

こう見ていくと、一般の庶民は、お米はめつたに食べられなかつたんだらう、と推測できます。麦に粟にヒエ。そんなのを食べてたんでしょね。江戸時代の話ですけど、津軽地方では、農民がご馳走ですとなつたら、せめてものご馳走ということ、小さな袋にお米を入れて、耳元で音を聞かせる。食べさせるわけじゃありませんよ。音を聞かせるんです。それが農民の精一杯。鎌倉時代の農村も、たいした違いは無かつたと思われます。



↑ちなみに軍議で吹雪が食べていたのは粟です。ご馳走じゃないとはいえちょっと食い過ぎですけど。



# 卷末語

畫本週彩頁的時候  
有種記憶猶新的感覺。  
幸好生在了和平的年代：

翻譯

古々谷殘丘

嵌字

三十二

壽丸滾滾漢化

首發微博

@混成連合會

歡迎加入漢化

測試群

648466051

順位14/19  
WJ2021 NO.31

第23話

少主溜得快

監製

不為